

八日市場を歩く

今年には伊勢神宮(三重県)の20年に一度の「式年遷宮」と出雲大社(島根県)の60年ぶりの「平成の大遷宮」がともに行われる年にあたります。遷宮とは、神社の本殿などの新築や修理の際に一時的にご神体を移すことなどをいいます。

宗教法人登録された市内66の神社のうち、遷宮の記録が伝わるのは老尾神社や松山神社、宮本・熊野神社(いずれも匝瑳地区)などと少なく、八日市場・八重垣神社に関しては江戸時代に管理していた見徳寺に残されています。

八重垣神社の社殿



それによると、1604年に御輿が造られ、1610年に「葺替あり」とあるので、本殿屋根が葺き替えられたのでしょう。およそ400年前の当時から、天王様とよばれる現在の八重垣神社が八日市場村にまつられていたことがわかります。

その後、1670年2月に見徳寺門前の火事で焼けた際は、直ちに仮宮を遷宮し、村中の氏子によって御輿も新調され、5年後の1675年5月に社殿が再建され

ました。そのころの家数を315軒とする記録があります。八重垣神社の石造の鳥居は1715年6月に建てられ、市内最古のものです。その2年前の1713年に祇園祭の御輿が初めて見徳寺門前に渡御したことが記録に見られます。

その後100年の間に3、4回再建されたとあり、社殿の新築や修理が加えられたのでしよう。

こうした遷宮の記録が見徳寺に残るのは、当時は神社の儀式を同寺住職が導師として執り行っていたためです。

1840年2月の「八日市場の大火事」は、田町から本町にまで延焼し、天王宮と見徳寺も焼失しました。見徳寺は火災から6年後に再建されたので、天王宮社殿も時を同じく建てられたのでしよう。

「祇園祭」は1697年ごろ天王宮所有の田からとれた米をもとに行われたと記録され、最近見つかった昭和9年(1934年)の愛郷歌に「今日はうれしや祇園お祭り…」と歌われています。

(元)市職員・依知川雅一
 問 秘書課広報広聴班